

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成30年4月19日（木）

2 確認項目

既設多核種除去設備に係る対応状況

3 確認結果の概要

平成30年1月18日のパフォーマンス向上会議で審議された、既設多核種除去設備に係る対応について、聞き取り確認した。

(1) 信頼性向上対策作業の内容について

電源の瞬時停止事象発生時にポンプが停止しないように、無停電電源装置（UPS）を設置した。

(2) 既設多核種除去設備(A)循環ポンプ(1A)シール水漏えいについて

ア 事象の内容

既設多核種除去設備(A)循環ポンプ(1A)より、シール水（ろ過水）が系統水（放射性物質を含む水）側へインリークしていることが確認された。循環タンク水位が上昇したため、インリークが発生していることを覚知した。機器内部の漏えいであり、外部への漏えいはない。

イ 推定原因

ポンプ軸封部分の経年劣化。

ウ 対応

応急処置としてシール水出入り口弁を「閉」運用としたことから、インリークはしていない。

(3) 既設多核種除去設備(A)バッチ処理タンク攪拌機(2A)インバータについて

ア 事象の内容

信頼性向上対策作業においてインバータパラメータ変更作業のためインバータ盤の扉を開けた際、インバータ上部カバーに変色があることを確認した。異臭、発煙は見られなかった。

イ 推定原因

再現試験の結果、再現性が無かったことから、ノイズキラーユニットに一過性の要因（過電圧、高ノイズの影響等）が加わり発生した。

ウ 対応

長期停止している既設多核種除去設備(B)の(2B)インバータと交換した。

4 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。